

青年の「自立」とキャリア教育の諸論点・調査研究をもとに

植上 一希

(福岡大学)

○課題設定

従来「標準的」とされてきた「自立」の在り方が、1990年代後半以降の日本社会の変容のなかで、縮小・転換を余儀なくされるなかで、青年の「自立」をめぐる問題状況と、その支援の在り方が、さまざまな形で議論されてきた。そして、教育の分野においても、なんらかの「自立」像をもとに、それに向けて青年を支援するための「キャリア教育」が盛んに提唱されるなどされている。

しかし、これらの議論の前提となるべき、「自立」像については、さらに多くの検討が必要なのが現状であろう。また、「自立」を支えるキャリア教育や職業教育についても、実態をふまえて、その機能や意義について検討を行う作業が、まずなされなければならない。本報告では、まず、近年なされてきたいくつかの調査研究をもとに、「自立」像をめぐる研究視点に関していくつかの論点を提示し、次に、報告者が専門学校を対象に行ってきた調査研究を中心に、キャリア教育や職業教育に対する研究の視点として、いくつかの論点を提示したい。

○青年の「自立」像の検討

近年、青年のキャリア形成や生活の現実にも迫る調査研究によって、青年の生きる多様な現実の諸側面が見えてきている。そして、そうした調査研究をもとに、青年の「自立」に関する様々な議論がなされており、それはまた、対象に対する研究者自身の視角の違いを浮かび上がらせるものともなっている。ここでは、こうした動向もふまえながら、報告者もメンバーとして参加する研究会が実施してきた、青年の労働・生活・文化に関する調査研究(中西新太郎・高山智樹編『ノンエリート青年の社会空間』大月書店、2009年)を中心に、青年のキャリア形成や生活の現実の諸側面を見るとともに、そこでの議論をもとに、青年の「自立」に関する諸論点を提示する。

○「キャリア教育」・職業教育の検討

報告者は主に専門学校を対象とした研究を行ってきたが、そのなかで強く感じてきたのが、職業教育に関する実態調査や理論的蓄積の少なさである。職業教育の実態がいかなるもので、それらがいかに機能し、いかなる意義をもつものなのか、実際には、ほとんど明らかにされていない。青年の「自立」を支援するために教育分野において「キャリア教育」や職業教育を進めることの必要性は報告者も認めるが、それを意味あるものにするためには、「キャリア教育」や職業教育を構成する諸要素を、その実態の検討をふまえて、構造的に把握するという作業がなされなければならないはずだ。しかし、こ

うした作業がなされないまま、一面的なキャリア教育や職業教育の把握・提唱がなされることが多いと思われる。

本報告では、報告者が行ってきた専門学校教育の調査研究などをもとに、キャリア教育・職業教育に関する諸論点を提示する。そしてそのうえで、分科会のテーマである、青年の「自立」とキャリア教育という両者の関係性について、報告者なりの提起を行いたい。